

竹久夢二

資

料館2階の常設展示(左千夫の生涯)の一部を郷土資料展示に開放しています。

5月は「山武市蓮沼殿台 五所神社の掛仏・山武市戸田金剛勝寺 善光寺式三尊」を展示しました。

6月3日(火)〜6月29日(日)までは、竹久夢二の俳句を展示します。

竹久夢二は美人画を多く残し、独特の作品は「夢二式美人」と呼ばれ、大正ロマンを代表する画家です。

何故?夢二の俳句が資料館に保管されていたのでしょうか。以前の「五鈴鏡」同様調査してみました。夢二の俳句は昭和62年発行の館蔵品目録に掲載されていることから、伊藤家伝世品であることは確かです。俳句を包んであった和紙には、「この四枚の句はわが親友故竹久夢二君(昭和9年

9月1日於信州富士見高原療養所にて逝く)の真筆なること相違なし念の為きす医学博士 岡田道一」と記してあります。確かに岡田道一博士は夢二の主治医であり、医者と患者関係から親友となり、夢二が四枚の句を岡田博士に譲ったと思われる。



俳句包み紙表書き

で

は、句を譲り受けた岡田博士と伊藤家との関係はいかに?昭和16年に移築された茶室「唯真閣」を訪問された人たちが記載する「無一塵芳名録」(昭和17年〜35年)があります。芳名録の昭和26年5月20日に岡田博士の訪問した理由と名前が記載されてい

ます。「昭和26年5月20日小松つる子姉にみちびかれてこゝに左千夫師しのびまつる」

われもまた唯真閣に

みちびかれ左千夫師

しのぶ庭のつわふき

愛玩の黒染茶碗に

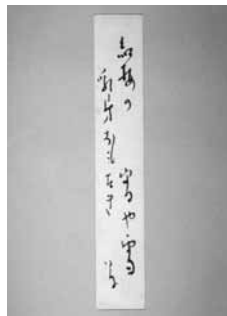
抹茶をば翁たつるなり

左千夫師遺蹟

案内された小松つる子さんは地元の短歌の愛好者であり、小松医院を経営されています。短歌愛好家・医者つながりから岡田博士は夢二の四句を伊藤家に寄贈したものと考えられます。当時は伊藤芬も

健在であり、左千夫や夢二の話で盛り上がったものと思います。

また、夢二と九十九里は関係が深く、記者のとき房総紀行を新聞に発表、掲載した記事を「九十九里へ」にまとめています。九十九里町には「宵待草」の碑が建立されています。四句は四季を歌ったものと思います。



紅梅の・・・

むらさきに春の雪
築地はくれる 夢
庭石に星まつり

ぬれてちる灯や 夢
竹の葉の別れかな

細りや星の 夢
紅梅の宵や雪

乳房おもたき 夢

この四句は新発見です。夢二ファンは挙つて見学に来てください。

問合せ 歴史民俗資料館

☎(82)2842



宵待草歌碑